

バイフューエル車を拡販

エフ・ケイ LPGとガソリン併用



古川社長と8月に市場投入した「プレミア(アリオン)・バイフューエル」

自動車整備などを手がけるエフ・ケイメカニックス(本社・大分市、古川克己)

社長はタクシー会社など商業用ユーザーを対象に先進型バイフューエル車(LPGガスとガソリンの併用車)の売り込みを強化している。すでに空港と地域を結ぶジャンボタクシーやコミュニティバスへの採用実績があり、八月からは中型セタンをラ

インナップに加えた。同社が扱うバイフューエル車の特徴について大鶴純二専務は「営業用の二種登録が可能であり、メーカーの新車保証も継続される。過酷な使用環境に耐えられる信頼性や安全性を確保している」と説明する。ラインナップはメルセデスベンツをはじめとする輸入車のほか、国産車はトヨタに限定しハイエース、プロボックス、ランドクルーザー、プレミオ(アリオン)などを揃えている。

LPG装置には先進型の気体噴射方式を採用。装置はイタリアから輸入し、自社工場でも取り付けたうえで新車として販売する方式を採用しており、改造キットの別売りはしていない。「LPG装置は欧州でバイフューエル車のライン生産に組み込まれているもので、日本国内では当社だけが扱っている」と古川社長。「CNG(圧縮天然ガス)・ガソリン」の併用車もラインナップしているが、これまでの採用例では

「LPG+ガソリン」を選ぶユーザーが圧倒的に多いという。バイフューエル車はガソリンで始動し、エンジンが一六〇〇回転、水温四〇度Cに達すると自動的にLPGに切り替わる。ガソリン車と比べCO₂排出量を約二二%削減でき、LPG装置などの初期コスト上昇分はランニングコストにより早い段階で取り戻せるという。例えば、八月に売り出した「プレミオ(アリオン)・バイフューエル」の

場合、初期コストが約七十万円プラスになるが、従来型LPG車との燃費比較だと「八万〜十万円分の走行でLPG装置などの上乗せ分をペイできる」と試算している。導入例ではタクシー会社が運行するジャンボタクシーやコミュニティバスに「ハイエース」を提案するパターンが多く、ユーザーは大分、長崎、福岡をはじめ、長野にまで広がっている。「営業用車両は一年ごとの車検や三ヵ月点検を課

せられており、きめ細かに対応するにはユーザーの最寄りの拠点との連携が必須になる」ことから、定期メンテナンスは各地のメーカー拠点や整備工場と連携。納車前後に現場での技術指導を徹底し、ノウハウを共有化している。「タクシー会社への提案で信頼性やコスト効果を早期に実証し、一般に打って出るための布石としたい。LPGガス業界を通じても広めていければ」(同)としている。